

# あらきっ子の「主体的に学ぶ力」を育てるために

## ～家庭でできる3つのポイント～

### ポイント1 家庭学習の習慣を身につけましょう！（どうしたら身につけられるの？）

どのご家庭でも、子どもたちに学習の習慣を身に付けさせたいと考え、「勉強しなさい！」「宿題しなさい！」とくり返しているのではないのでしょうか。しかし、なかなか自分から進んで勉強するようにならずに頭を悩ましている方も多いのでは…。

どうすれば、子どもが「自分からどんどん勉強する」ようになるのでしょうか。なかなか勉強に取り組めないお子さんには、次の方法を試してみてもいいかもしれません。

#### ①「一緒にやろう！」 親の関わりが大切！

子どもが勉強するかどうか、親の関わり度合いにかかっています。特に低学年、中学年では、親の関わりが大きく影響します。

なかなか時間がとれないかもしれませんが、**子どものとなりに座って一緒に問題を解いてみましょう。**



#### ②「短い時間から始めよう！」 子どもの集中力は短時間しか続かない！

子どもによって個人差はありますが、子どもの集中できる時間は意外と短いものです。ですから、集中が続かない子どもの場合、一度に長い時間の学習をさせるのではなく、**短い時間で細切れにして取り組ませる**ことも有効です。**数分単位で、計算・漢字と切り替えてみたり、間に1分間の休憩をはさんでみたり**してはどうでしょうか。タイマーで時間制限すると一気に集中力が増す子もいます。キッチンタイマーを使ったり、実際に**時計を見て「〇分までやってみよう」と声をかけたり**してみてください。また、**時間ではなく、問題数を区切って、「とりあえず5問」と声をかけると「やろうか…」**という気になる子もいます。**子どもはゴールが見えているとがんばれます。**「勉強しなさい」をくりかえしているより、そんな方法を試してみませんか。そして、少しずつ時間を延ばしていけばよいのです。

#### ③「少しでもできたら、たくさんほめてあげよう」 プラスの声かけが効果的！

子どものやる気を上げるには、とにかくほめてあげることです。子どもにとって必ずしも「宿題は、できて当たり前」ではありません。でも、ついついできないことばかりに目がいきがちです。「どうしてこんな問題ができないの？」と子どもを責めていませんか。まずは、「**できていること**」に目をむけてください。1問できただけでも、「よくできたね！」と最初は大げさにほめてください。そして、**ぜひ丸つけをしてあげてください。全部終わってから、大きな丸を1つつけるのではなく、1問ずつ丸をつけてあげてください。**

子どもは、丸をつけてもらうことが大好きです。「まだ、できないの？」をプラスに言い換え、「**ここまでできるようになってすごいね！**」と声をかけてあげてください。



## ポイント2 子どもが発言する場をつくりましょう！

### 自分の言葉で伝えさせることが大切！

今回の学習状況調査の結果、あらきっ子が楽しく学校生活を送っていることがわかりました。また、友だちの話にしっかりと耳を傾けたり、困っている友だちを助けたりできる子が増えていることもわかりました。

一方で、自分の考えや意見を友だちに伝えることが苦手であると感じている子がやや多いという課題も見られました。そのため、自分とは異なる考えを持つ友だちとうまく折り合いをつけられないことがあるようです。「先生、ノート…」など、単語だけしか発しない子がいます。おそらく家庭の中では、単語だけでも通じてしまい、おうちの方も特に聞き返すことをしないのだと思います。ぜひ、**子どもが何を伝えようとしているのかを最後まで言わせて、最後まで聞いてあげてください。**単語だけで通じるようにしてしまえば、子どものコミュニケーション能力は育ちません。会話のできない人になってしまいます。



お家の方も「早く！」「宿題は？」と単語だけをぶつけないようにしていきたいですね。さらに家庭の中だけではなく、**外出した際にも子どもに質問をさせる機会をつくってあげてください。**例えば、デパートなどであえて「トイレはどこですか」と子どもに聞かせてみましょう。「トイレ…」だけでは、相手に伝わらないことに気づくでしょう。**学校でも子どもたちの話に最後まで耳を傾けたい**と思います。また、**忘れ物をしたり、失敗したりした時も、ごまかしたりせずしっかりと自分の言葉で伝えられる子どもを育てていきたい**と思います。



## ポイント3 気持ちのよいあいさつで1日をスタートさせましょう！

みなさんのご家庭は、家族同士での「おはよう！」で一日をスタートさせていますか？新木小では、生活委員会の子どもたちが正門に立ち、登校するあらきっ子に「おはよう！」と声をかけています。少しずつ、あいさつを返してくれる子どもたちが増えてきています。21世紀の社会に求められる人材には、コミュニケーション力が欠かせません。**あいさつはコミュニケーションの第一歩です。声に出すからこそ、思いが伝わります。**朝、起きたら「おはよう」の挨拶を！そして、登校するお子さんを「いってらっしゃい」と元気に送り出してあげてください。家族同士のあいさつが習慣となっている子どもは、気持ちも安定しています。

**子どもに友だちづきあいを覚えさせるには、まずあいさつをする習慣を身に付けさせることが大切です。**元気にあいさつができると、友だちも増えます。友だちが増えるといろいろな情報が入り、学習にも結びつきます。あいさつが交わされる地域は、犯罪も少ないと聞きます。**気持ちのよいあいさつが響く学校、家庭、地域をみんなで作っていきましょう。**

